



明治天皇御製  
皇后御歌

明治十二年

二

特別  
へ 2  
4867  
30(2)





明

次平身

御製

同

一

白王后御歌

二冊ノ内

宮内省





兩中萩

十月七日平尾諱藏ヲ以テ拜見被

仰付

林紅葉

松と花の茂るは言ふ事此と異なり毎夏は花のなる所

舟前萩

舟前萩の舟前萩の舟前萩の舟前萩の舟前萩

演月

演月の舟前萩の舟前萩の舟前萩の舟前萩の舟前萩

山家秋月

山家秋月の舟前萩の舟前萩の舟前萩の舟前萩の舟前萩

山家秋月



霧中雁

秋のゆきしづくはあつたに春はしづくはあつたに

月前裡

月よあはれ月よあはれ月よあはれ月よあはれ

月よあはれ

秋の月よあはれ月よあはれ月よあはれ月よあはれ

山猿

山猿のこゝろはあつたに月よあはれ月よあはれ

遠村鶏

遠村鶏のこゝろはあつたに月よあはれ月よあはれ

月前裡

秋の月よあはれ月よあはれ月よあはれ月よあはれ

秋間猿

秋間猿のこゝろはあつたに月よあはれ月よあはれ

海上雲

海上雲のこゝろはあつたに月よあはれ月よあはれ

遠山紅葉

遠山紅葉のこゝろはあつたに月よあはれ月よあはれ

月よあはれ

月よあはれ月よあはれ月よあはれ月よあはれ



行路虫

秋の夜ありし中をこつけりてあはれなる虫あり

野月

空のやうな月をみればあはれなる虫あり

果庭葉

あつたもたれぬ庭とて草のわらわのやうに所見あり

月か葉

うは葉にさへあはれなる月をみればあはれなる虫あり

山家秋雨

ちよと雨をよみては葉なるもさうに任る海や此葉に

名所月

まかたをよみてはあはれなる月をみればあはれなる虫あり

尋紅葉

あつたもたれぬ庭とて草のわらわのやうに所見あり

行路見月

あつたもたれぬ庭とて草のわらわのやうに所見あり

故口松

あつたもたれぬ庭とて草のわらわのやうに所見あり

道上月

あつたもたれぬ庭とて草のわらわのやうに所見あり

夕月三入...  
ト上

宮内省



裁葉

植立し庭のしる葉は終るにぬをに白ひりり

山家葉

山原の葉はしる葉のむとては中をすよとひり

月あそび

月あそびのむとて葉のむとては中をすよとひり

林の葉

林の葉はしる葉のむとては中をすよとひり

霧中雁

霧中雁のむとては中をすよとひり

此三下しと九て二テハ照  
る也ト云々此三下しと九て二  
ト云々此三下しと九て二ト云々  
自ルル也

朝見の葉

朝見の葉はしる葉のむとては中をすよとひり

名所

名所の葉はしる葉のむとては中をすよとひり

行路の葉

行路の葉はしる葉のむとては中をすよとひり

尋紅葉

尋紅葉の葉はしる葉のむとては中をすよとひり

行路の葉

行路の葉はしる葉のむとては中をすよとひり



水色葉

水色葉の花は池水より清く白く母に似る

松石月

松石月の光は夜更けの月より清く母に似る

月影程

月影程の光は夜更けの月より清く母に似る

山猿

山猿の鳴きは深山より清く母に似る

別紙ヲ以テ言上

御制長段の御屏邊社名 遊令度所敷首を以て中

下之は昔 在りて惣孫に奉大に 中宣を 忠記を  
奉給て 萬一言上と奉事す

田上雁

十月七日 唐懷忠朝ヲ以テ社名 見下

山紅葉

山紅葉の光は深山より清く母に似る

露中月

露中月の光は夜更けの月より清く母に似る

月影程







幾多秋のやの本は多し  
行路花

秋雨打窓  
小夜更に露降

霧中初雁  
月照松

月照松  
月あつ葉

夕霧

夕霧

霧中初雁

月照松

月あつ葉

夕霧

霧中初雁

月照松

月あつ葉

夕霧

霧中初雁















初月明くこれに梅もみちたて雪もたけしうららかに  
御製  
菊花色々

庭前よ咲くはるかにさきもむらさきの花もさうりく  
正月迄

秋空くゆはりのうらみすむ月の影もあふれ  
庭紅葉

初月雨のふりしづかき紅葉のまも子へは  
菊花盛

茶の花子をせの秋乃は  
おと西務

任はのまつ乃にさしも何はあはれに  
御製  
暁時雨

秋空くと梅もさきさきハ  
月前菊

庭前のまもはるかにさきもむらさきの花もさうりく  
菊庭中

春のやうに梅もさきさきハ  
舟中月

梅もさきさきハ  
舟中月

梅もさきさきハ  
舟中月











時をたてはく支本末とおもひもりけりなごまの紅葉を

柳製表  
推婦月

すむ月れ新をきつと紫人のくれききあはれり山を

釣史掉月

秋のふりさや夕陽月に美人の釣をいさの可なりそえり

流前草花

山本の二葉うすくは秋のやむくきふさむくさむれ

菊花をりて

庭のふりさりて下りて花をいさの可なりそえり

海庭麻

三首の詩ノ方ニテハ  
カクヤリシ

こころのつらさなりて身もくさく波乃まらうと麻の香

柳製表  
河菼

波のつらさなりて身もくさく波乃まらうと麻の香

月前舞

あつたつと山をききわたりて月をいさの可なりそえり

燈草花

燈の光をいさの可なりそえり

善山麻

あつたつと山をききわたりて月をいさの可なりそえり

柳製表  
月前狸

三首の詩ノ方ニテハ  
カクヤリシ







柳 月 前 菊

庭北菊は月を照らす花をてら菊は秋の月を

暖 月

海とのたをわらぬ月を照らす月花影もさすうく方明の

夕 霧

さびしやと又さびし山を照らす夕霧やさすうく秋のゆらさ

松 竹 紅 葉

又海苔の香やまのりさすうく松竹紅葉の

4. 月を照らす月花影もさすうく方明の

前月の白きあけの香も又さびし山を照らす夕霧やさすうく秋のゆらさ

ふく 十一月六日 又拜見

庭北菊は月を照らす花をてら菊は秋の月を

古 葉

庭北菊は月を照らす花をてら菊は秋の月を

海 邊 霧

庭北菊は月を照らす花をてら菊は秋の月を

行 路 紅 葉

庭北菊は月を照らす花をてら菊は秋の月を

知 見 紅 葉

庭北菊は月を照らす花をてら菊は秋の月を

明 月



大元の月此のうらやまはよおのたふたふたの秋のふたふた

故郷兼

任然一海の千のたよふの秋の響くは白ふたふたの秋のそ

道兼兼

方然一うらやまの秋の兼ふたふたの秋のふたふた

山道吟兼兼

山道江さふらふに様一此兼ふたふたの秋のふたふた

兼ふたふた

兼ふたふたの秋の兼ふたふたの秋のふたふた

白葉

大元

任然

方然

山道

兼ふた

兼ふた

兼ふた

兼ふた

兼ふた

兼ふた

兼ふた

初めゆきとふゆきとらるるの秋のふたふた

川知兼

ま田のやうな秋の兼ふたふたの秋のふたふた

月不標所

大元一海の千のたよふの秋の響くは白ふたふたの秋のそ

夜兼

兼ふたふたの秋の兼ふたふたの秋のふたふた

山月

兼ふたふたの秋の兼ふたふたの秋のふたふた

田家作



白く清く流るる水のよきとて夜も涼しき所なりとて

寝巻無

わがはきの為受けとてよきとて夜も涼しき所なりとて

遠村の意

よかの原のたけのこけしにまはるる水も清く

田家言

秋もや田の草もよきとて夜も涼しき所なりとて

山の葉

初もよれ流るる水も清く

月あけ

いそよの月あけの光もよきとて夜も涼しき所なりとて

月

星のやもよきとて夜も涼しき所なりとて

月夜語り

よひの光もよきとて夜も涼しき所なりとて

月夜語り

秋もよきとて夜も涼しき所なりとて

葉満庭

初もよきとて夜も涼しき所なりとて

河霧



吉原の御所もさるる勢甲中々に望むるの海の如くは

樵夫音帰

山はふさふさとしはるる志はるる海はるる海はるる

舟子眺望

舟子眺望 舟子眺望 舟子眺望 舟子眺望

朝見紅葉

朝見紅葉 朝見紅葉 朝見紅葉 朝見紅葉

果庭秋夕

果庭秋夕 果庭秋夕 果庭秋夕 果庭秋夕

故郷残月

故郷残月 故郷残月 故郷残月 故郷残月

旅曉月

旅曉月 旅曉月 旅曉月 旅曉月

山家月

山家月 山家月 山家月 山家月

福造雁

福造雁 福造雁 福造雁 福造雁

故郷葉

故郷葉 故郷葉 故郷葉 故郷葉

籬柔白

籬柔白 籬柔白 籬柔白 籬柔白







夕陽の影もかゝる中月の影もかゝる此の光景は

池邊景

九通拜見ト  
池邊景の  
夕陽の影もかゝる中月の影もかゝる此の光景は

玉露池のほとりには水鏡の如く  
松岡紅葉

松岡紅葉

秋の夕陽に照らされ  
紅葉映日

紅葉映日

夕陽の影もかゝる中月の影もかゝる  
月夜渡雁

月夜渡雁

大空の雁の影もかゝる  
入夜聞雁

入夜聞雁

夕陽の影もかゝる中月の影もかゝる  
見山紅葉

見山紅葉

又夕陽の影もかゝる  
兼花より

兼花より

もたはる夕陽の影もかゝる  
杜の紅葉

杜の紅葉

夕陽の影もかゝる中月の影もかゝる  
月不標変

月不標変

大空の雁の影もかゝる  
山花

山花







ゆきとれ荒しはゆきとれ花も白くあきこれ

山辺御座

あはれはゆきとれ花も白くあきこれ

兼ふゆき

ゆきとれ花も白くあきこれ

兼ふゆき

ゆきとれ花も白くあきこれ

兼ふゆき

ゆきとれ花も白くあきこれ

兼ふゆき

ゆきとれ花も白くあきこれ

兼ふゆき

ゆきとれ花も白くあきこれ

兼ふゆき

ゆきとれ花も白くあきこれ

兼ふゆき

ゆきとれ花も白くあきこれ

兼ふゆき

ゆきとれ花も白くあきこれ

兼ふゆき







おもしろけれ〜〜〜〜〜  
山家人掃

山家人掃

山原ふ葉れ〜〜〜〜〜

秋深夜長

秋深夜長〜〜〜〜〜

旅宿麻

旅宿麻〜〜〜〜〜

深夜聞簾

深夜聞簾〜〜〜〜〜

松露

ふ代新〜〜〜〜〜  
庭あり兼

系筆れ〜〜〜〜〜  
紅葉浮水

三白門〜〜〜〜〜  
蕉新葉

葉人の〜〜〜〜〜  
月あつ晴

月此澄は〜〜〜〜〜  
月あつ麻



山のふもとに暮らす人の色はあざやかに  
見ゆれば

てはそぞろとゆきし秋の光を  
旅宿に

そのまぶさたもかきし  
橋上霧

陽田川を渡る  
野原

橋を渡る人の影を  
行路に

友人とていふも  
秋葉花

白葉花を  
山家秋夕

夕暮れに  
見月

三日月  
田舎秋夜

あまの  
秋月明







山宮の松のすむりの松  
さへ月とてあまのこころ

故郷虫

あまのこころとてあまのこころ  
さへ月とてあまのこころ

水口松又

水口松又  
あまのこころとてあまのこころ

葉花久白 十一月十四日一入拜見

あまのこころとてあまのこころ  
さへ月とてあまのこころ

西深の松

あまのこころとてあまのこころ  
さへ月とてあまのこころ

霧陽河

あまのこころとてあまのこころ  
さへ月とてあまのこころ

河朝霧

あまのこころとてあまのこころ  
さへ月とてあまのこころ

雛葉花

あまのこころとてあまのこころ  
さへ月とてあまのこころ

月夜受了

あまのこころとてあまのこころ  
さへ月とてあまのこころ

宮内省



秋雁

くたより移るつらき秋の雁のこゝろとあはれ

山知景

りの原をわたる山知の秋の景のあはれ

夜麻

秋の夜麻のあはれ

庭菜

秋の庭菜のあはれ

秋山

秋の山知のあはれ

故郷秋

秋の故郷のあはれ

船中初雁

船中の初雁のあはれ

船中舟

船中の舟のあはれ

川をわたる舟のあはれ



秋夕守鐘

秋夕の月... （紅い文字）

夕雁

秋夕や夕雁... （紅い文字）

秋山

秋夕の山... （紅い文字）

表紙

山... （紅い文字）

月三筆

秋夕... （紅い文字）

秋夕景

秋夕... （紅い文字）

海上霜

十一月十八日第一拜見

田上雁

秋夕... （紅い文字）

空筆紅葉

秋夕... （紅い文字）

秋夕















去天雁

越ゆるほらさすまみなりあそとてふれりさるる

通葉

又後せぬのうらほさすまれつらかりにさるる

雲りしぬのうらほさすまれつらかりにさるる

霧間雁

さらばやうのれさるるほらさすまれつらかりにさるる

初雁

音原さすまみれりわらうらほさすまれつらかりにさるる

初葉

あまのうらほさすまれのれりわらうらほさすまれつらかりにさるる

さらばやうのれさるるほらさすまれつらかりにさるる

速天線雁

又それつらかりにさるるほらさすまれつらかりにさるる

水無形 十一月十五日 一入并見

ゆきしかりさるるほらさすまれつらかりにさるる

大匠物 十月三日拜見 水沙依三依テ高崎三風三子流

先づしやゆきさるるほらさすまれつらかりにさるる

若果ノ如ク水直カレバサマニ風拂ノリ可無ク間ハナク水決定申上



仰詔有旨 所地居示詠九ノ通 而及定申上  
島津忠義の家ノ之ノ竹へノ天追物と云

初厂 十二月九日 予又拜見

秋風可吹 幸す大は路々 吹くは秋風 初と云

初厂也

清風吹く 吹くは秋風 吹くは秋風 吹くは秋風

庭前路也

秋風吹く 吹くは秋風 吹くは秋風 吹くは秋風

松岡紅葉

秋風吹く 吹くは秋風 吹くは秋風 吹くは秋風

月前鶴

秋風吹く 吹くは秋風 吹くは秋風 吹くは秋風

桂子庭前菊

秋風吹く 吹くは秋風 吹くは秋風 吹くは秋風

山家落葉 十二月十一日 予又拜見

秋風吹く 吹くは秋風 吹くは秋風 吹くは秋風

梧葉



ふんのかしひ 後をりまて 一 ぬらふらぬらぬら

川原景

三 河原がうまうま ねねのやううう ころねねねね

海邊が由

飛しやうの ねねの ねねの ねねの ねねの

山原景

山原の ねねの ねねの ねねの ねねの

矢上霜

ねねの ねねの ねねの ねねの ねねの

故口又月

ねねの ねねの ねねの ねねの ねねの

月照残景

ねねの ねねの ねねの ねねの ねねの

庭霜

ねねの ねねの ねねの ねねの ねねの

重夜食

十二月十三日 庭傍試補 ヲロウ 夜食 見下

ねねの ねねの ねねの ねねの ねねの

朝霜

ねねの ねねの ねねの ねねの ねねの



雉子音

酒をばらばら丹敷に飲ませしうらやまのりまのり

水音

池をばらばらのゆをぬれしゆらふきききききき

水をばらばらのゆをぬれしゆらふきききききき

初時雨

まはりまはりまはりまはりまはりまはりまはり

千鳥

千鳥千鳥千鳥千鳥千鳥千鳥千鳥千鳥

禁庭落葉

庭のゆきふりまはりまはりまはりまはり

浦子音

浦のゆきふりまはりまはりまはりまはり

山家落葉

山家のゆきふりまはりまはりまはりまはり

山家切响

山家のゆきふりまはりまはりまはりまはり

笈上霜

笈上のゆきふりまはりまはりまはりまはり

秋葉



又後より林の末の草の露の白の梅の乃らぬとて葉の白

庭残葉

紅葉せし葉の白の草の白の梅の乃らぬとて葉の白

田上霜

秋の白の田の白の草の白の梅の乃らぬとて葉の白

庭を月

庭の白の草の白の梅の乃らぬとて葉の白

水上を月

冬此の川の上の草の白の梅の乃らぬとて葉の白

野胡霜

冬此の川の上の草の白の梅の乃らぬとて葉の白

十二月の草  
都歳工書

冬此の川の上の草の白の梅の乃らぬとて葉の白

冬此の川の上の草の白の梅の乃らぬとて葉の白

庭上霜  
十二月十七日

冬此の川の上の草の白の梅の乃らぬとて葉の白











おれやふのこゑとをこひて松の本傍よほすぬき

浮舟島

をれよのまほしきあはれさうのきさしにたはるる

初冬霜

をれあきさきさきさきさきさきさきさきさき

水上冬月

冬夜のまじりに月を照らす水のこぼれ

ありて月を照らす水のこぼれ

川邊冬草

初冬のまじりに月を照らす水のこぼれ

おれやふのこゑとをこひて松の本傍よほすぬき

竹間霜

おれやふのこゑとをこひて松の本傍よほすぬき

初冬

をれよのまほしきあはれさうのきさしにたはるる



此乃... 卷之四

卷之四

此乃... 卷之四

卷之四

此乃... 卷之四











十月八日  
高崎  
天守

在相... 此... 後...

八月五日... 河...

如安  
七月九日拜見

おそれ... 物...

はれ... 物...

九月五日... 九月四日拜見  
園秋風

おれ... 物...

おれ... 物...

十月... 蕨...

おれ... 物...

女... 中...

おれ... 物...

四



御清子三集

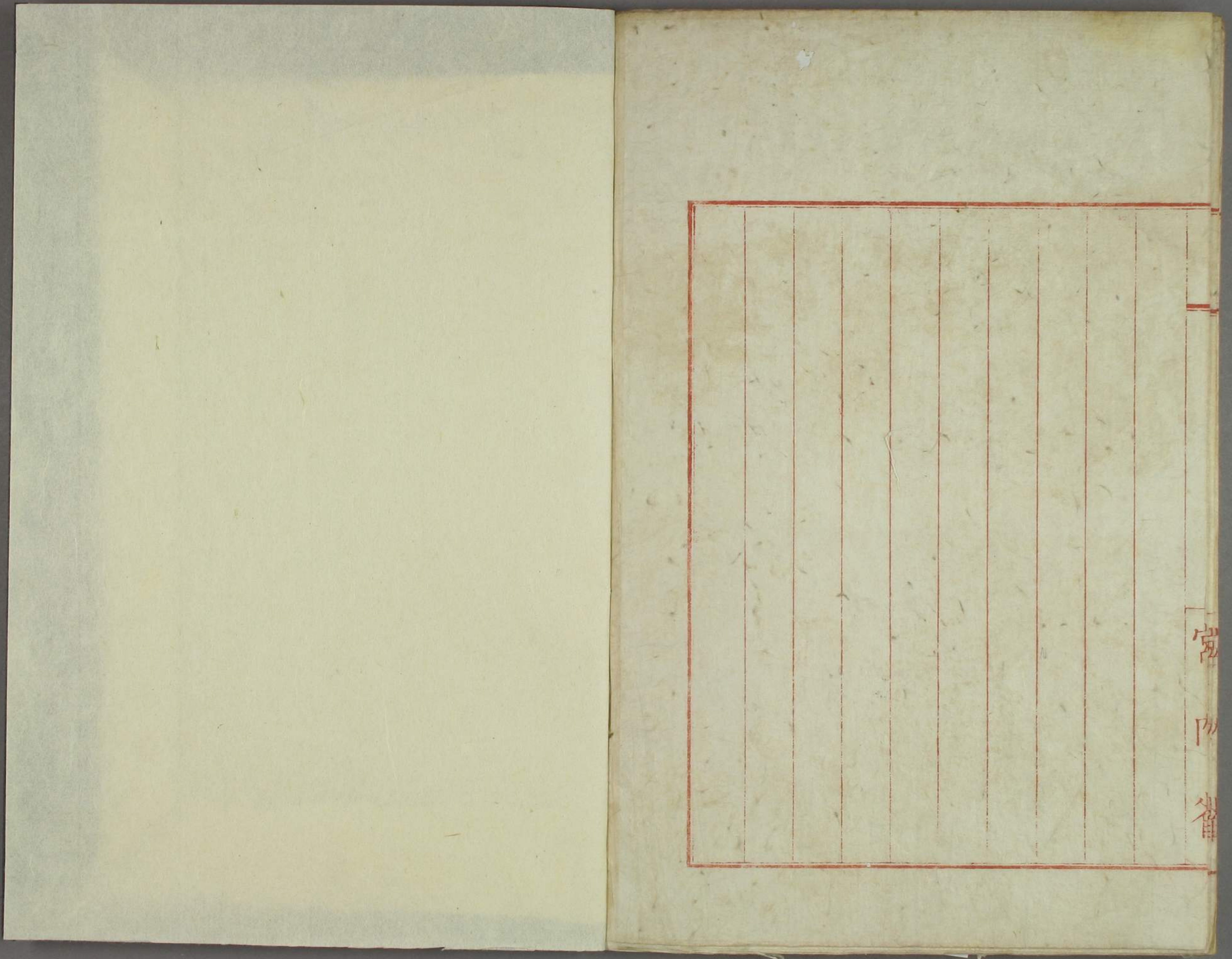
長其鶴野

高橋氏流









富  
内  
省



